

## 第 240 回 三鷹市の松田進勇像と国立市一橋大学の銅像

筆者：林 久治（記載：2023 年 6 月 25 日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の 7 月は、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、大阪在住の 3 人の孫達は夏休み前に感染したが軽症であった。そこで、私は 9 月初旬に大阪に行き、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 3 月 21 日から 31 日まで、大阪に滞在し孫達の世話をした。その間に、銅像探索も少しは出来た。[227 回の記事/f](#) では、その中から大阪市の弘世像の探索記を記載した。[228 回の記事/f](#) では、茨木市の奥田光像の探索記を記載した。[229 回の記事/f](#) では、京都市の田辺朔郎像の探索記を記載した。[230 回の記事/f](#) では、大阪市中央区の林市蔵像の探索記を記載した。

私は 6 月 16 日に、東京都港区にある東京都神社庁の香取茂世像を探索し、ついでに京葉線潮見駅前にある北原怜子像も探索して、それらの探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。以前、私は [3\) のサイト/1](#) で、三鷹市の杏林大学医学部付属総合病院に松田進勇先生の胸像があることを偶然見つけていた。本像は [1\) のサイト/](#) に収録されていない。そこで、6 月 24 日に本像を探索した。

私はそのついでに、国立駅に廻って一橋大学にも行って見た。実は、私は [87 回の記事/f](#) で、大学構内の矢野二郎像、村瀬春雄像、佐野善作像、及び堀光亀像を紹介した。しかし、当時の私は日本の銅像探偵団に加入したばかりで、これらの像の制作者を調査していなかった。その後、私は何度か一橋大学に足を運んでみたが、武漢肺炎のため部外者は入構禁止になっていた。「最近は一橋大学に入構可能になっているかもしれない」と思い、今回行って見た次第である。本稿は杏林大学と一橋大学との探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

(2) 杏林大学の松田進勇像

杏林大学医学部附属総合病院（三鷹市新川 6-20-2）は、鉄道の駅から少し離れた場所にある。しかし、本院は三鷹市の基幹病院であるので、JR 吉祥寺駅や JR 三鷹駅からのバス便は大変便利である。図 1 上に、本院周辺のバス路線図を示す。



図 1.

上：杏林大学病院周辺のバス路線図、本図は、[4](#)のサイト/fより借用、

下：JR 吉祥寺駅南口のバス乗場、本図は、[5](#)のサイト/より借用。



図1下には、JR 吉祥寺駅南口のバス乗場を示す。6番乗場（野ヶ谷行、深大寺行、調布駅北口行）と7番乗場（仙川行、新川団地中央行）からのバスが杏林大学病院を通るバスの乗場である。予想通り、土曜日にもかかわらず、バスの本数は非常に多かった。吉祥寺駅から約20分で本院に到着した。

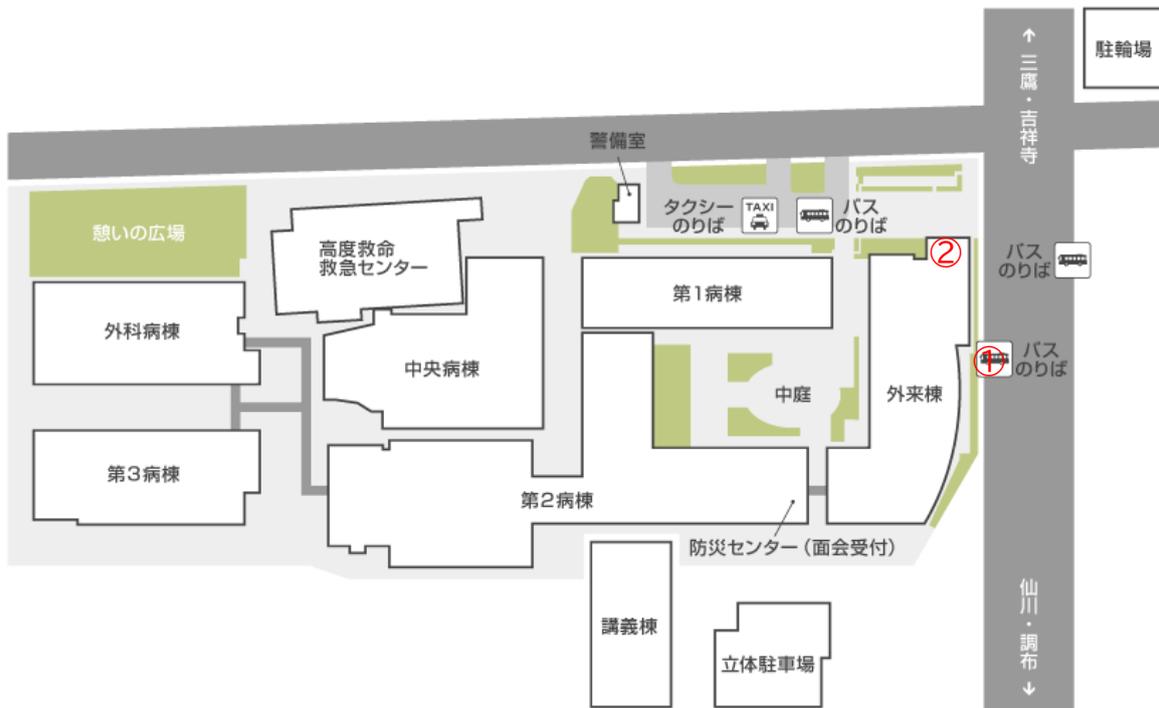


図2. 上：杏林大学病院の構内図、下：杏林大学病院の外来棟。

図2上に杏林大学病院の構内図(6)のサイト/より借用)を、図2下に杏林大学病院の外来棟を示す。本院は大変広くて清潔な印象であった。JR吉祥寺駅からのバス停(図2上の①)の直ぐ近くに外来棟の玄関(図2上の②)があった。この玄関から外来棟に入ると、入口の直ぐそばに1基の胸像があった。その写真を図3上に示す。(本文は5ページに続く。)



図3. 上：外来棟玄関、下：松田進勇先生像



図4. 上左：本像の寄贈者と寄贈年（台座背面）、上右：制作者のサイン（本像背面）、下：松田先生の略歴。

図3下には、松田進勇先生像を示す。台座正面の題字には「杏林学園創立者松田進勇先生」とあった。図4上左に示すように、台座背面には本像の寄贈者と寄贈年が記されていた。本院の建設業者が寄贈したのであろう。本像背面の制作者サインを図4上右に示す。それには「武雄作」とあったが、名字の推測は後述する。図4下に示すように、台座側面には松田先生の略歴が貼付されていた。この内容は本像の概要欄に記載する。

ウィキペディアによれば、杏林大学の概要は次の通りである。

①東京都三鷹市に講義・研究使用目的のキャンパス2つと、八王子市にグラウンド専用使用目的のキャンパス1つを有している。医学部を中心に、理系・文系の4学部15学科を設置する総合大学であり、理系・文系の3研究科を有する大学院も設置する。1954年（昭和29年）に開設された三鷹新川病院（現：杏林大学医学部付属病院）を母体とし、1970年（昭和45年）に台湾人の松田進勇（日本名）と松田家によって大学が創設・経営される。

②大学名の由来：「古代中国の医師・董奉（とうほう）が、貧しい患者からは治療代を受け取らない代わりに杏の実を植えさせ、いつの日か実が樹となり林となった」という故事・伝説（原典は神仙伝にある董奉）から、「杏林」は良医を表す語とされている。（なお、杏林製薬とは命名の由来こそ同じであるが、無関係である。）

③建学の精神は「眞・善・美の探究」である。建学の精神を通じて、優れた人格を持ち、人のために尽くすことの出来る国際的な人材の育成を目指している。「眞」：真実・真理に対して謙虚であるとともに、自ら進んで学び、研究すること。「善」：倫理観を持ったよき人間性・人格を形成。他人に対してやさしく、思いやる心を持った人格を自ら築き上げて、人のために尽くすこと。「美」：真理に対し謙虚に学ぶ姿勢を持ち、他人を尊重し、自らの身を持するのに厳しく、美しいものを美しいと感じる感性を磨くよう努めれば、自然に美しい立派な風格のある人間に成長していくこと。

また、7)のサイトには「杏林学園50年の歩み」と題する動画がある。[8\)のサイト/f](#)には、松田先生の経歴が詳しく書かれている。その最初には次のように書かれている。

1904年：日本の統治が始まってまもない台湾の台南州斗六郡斗南街で、明の没落時に、鄭成功に従って渡来した漢人の末裔で、日本の庄屋にあたる家柄の曾亭の子に生まれる。

[9\)のサイト/4](#)には、「松田進勇の台湾名曾進勇」と書かれている。[10\)のサイト/](#)には、「松田家（杏林学園理事長・松田博青・松田剛明の家系図）」が記載されている。

以上の資料などにより、松田像の概要は次の通りである。

#### 松田進勇先生胸像

設置場所：三鷹市新川 6-20-2 杏林大学医学部付属総合病院 外来棟玄関内

制作者：武雄

寄贈者：竹中工務店、三機工業

設置時期：1991年

設置経緯：松田進勇先生（1904-1988）は、日本の統治が始まってまもない台湾の台南州斗六郡斗南街で、明の没落時に、鄭成功に従って渡来した漢人の末裔で、日本の庄屋にあたる家柄の曾亭の子に生まれる（台湾名：曾進勇）。1932年日本大学医学科卒。1954年に開設した三鷹新川病院（現：杏林大学医学部付属病院）を母体とし、1970年に杏林大学医学部を創設。

#### 松田進勇先生略歴

台湾雲林県出身、日本大学医学科卒。医学博士（京都帝国大学）。1966年杏林学園創立、杏林大学医学部同付属看護専門学校、保健学部、社会科学部外国語学部、大学院医学、保健学、国際協力各研究科を開設、勲二等瑞宝章受賞。

### (3) 国立市一橋大学の銅像探索

私は杏林大学の松田像を探索した後、三鷹駅から国立駅に行き、一橋大学で銅像探索を目指した。前回は、正門が閉ざされていて「部外者の立入禁止」との掲示があったので入構出来なかった。今回は、正門の方戸が開いていて、「部外者は守衛所にお越し下さい」と書いてあった。そこで、私は正門内の守衛所に行き、「構内の見学はよろしいでしょうか？」と尋ねた。すると、守衛さんが「建物の中には入らないで下さい」と言って、入構は許可してくれた。

私は [87回の記事/f](#) で、本学構内の矢野二郎像、村瀬春雄像、佐野善作像、及び堀光亀像を紹介した。しかし、それらの制作者の名前を調査していなかったため、今回は再探索を試みた次第である。

図5に村瀬像の碑文を、次ページの図6上左に村瀬像側面の制作者サインを示す。

(本文は9ページに続く。)

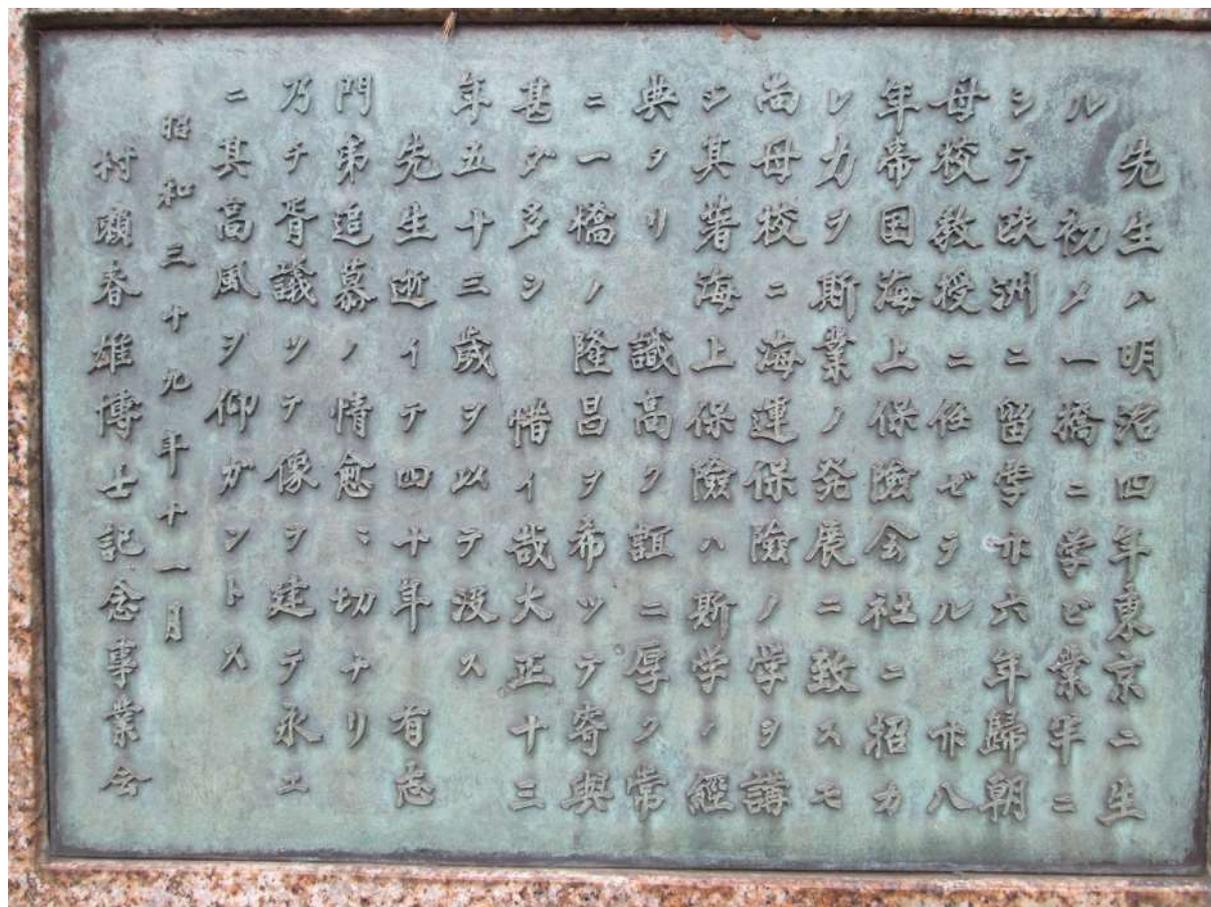


図5. 村瀬像の碑文



図6. 上左：村瀬像側面の制作者サイン、上右：佐野像側面の制作者サイン、下：佐野像の碑文。



図6. 堀光亀像に彫られていた制作者のサイン

図6に、堀光亀像に彫られていた制作者のサインを示す。なお、矢野像は高い台座に乗っているため、本像の背面や足元が見えず、制作者は不明であった。以上の結果より、村瀬像と佐野像の制作者は堀進二氏で、堀像の制作者は好行氏であることが判明した。

堀進二氏は私の銅像探索記でもよく登場している有名な彫刻家である。最近では、[236回の記事/f](#)（東大医学部の銅像）で登場している。そこで、堀氏の略歴を次のように紹介した。

**制作者略歴：**堀進二（1890-1978）は太平洋画会、文展、帝展、日展で活躍した彫刻家。東京生まれ、太平洋画会研究所に入り、新海竹太郎に師事した。このころ、中原悌二郎や中村葬ら新宿中村屋の芸術家グループと交わる。のちに中村舞の肖像彫刻を制作した。1911年以後、文展、帝展に出品を続けた。東大工学部建築学科で、非常勤講師として、新海竹太郎のあとを受け、28年から47年まで、さらに56年から59年まで彫塑の講義を受け持った。東大の肖像彫刻を数多く制作している。

好行氏は「**渡辺弘行氏**」である。渡辺弘行氏のネット記事は少ないが、[11\)のサイト/8](#)に次のように書かれている。

**渡辺弘行氏（1891-1988）**は、香川県出身、東京美術学校（現東京藝術大学）を卒業。東洋のロダンと呼ばれた朝倉文夫に師事。定展や日展を中心に活躍し最高賞である特選も受賞した彫刻家です。現在、彼の他の作品には20数万円の値が付いているものもあります。

また、[12\)のサイト/](#)には、次のような記事があった。

**渡辺弘行氏と渡辺隆根氏との彫刻家親子二代のアトリエ**が豊島区长崎にある。このアトリエは昭和8年に建築され「長崎アトリエ村」ゆかりのアトリエとして豊島区の文化財登録もされています。

なお、息子の渡辺隆根氏の略歴が、[13\) のサイト/0](#)に書かれている。その要点は次の通りである。

渡辺隆根（ワタナベ・タカネ）：1939年、東京に生まれる。1965年、東京藝術大学大学院修了。東京造形大学名誉教授（2005～）、現代日本彫刻作家連盟代表（2010～）。2012年8月7日、逝去・享年73歳。

以上の資料などにより、村瀬像、佐野像、及び堀像の概要は次の通りである。

#### 村瀬春雄胸像

設置場所：東京都国立市中 2-1 一橋大学経済研究所の東

制作者：堀進二（1890-1978）

除幕式：1964年11月（没後40年）

設置経緯：村瀬春雄（むらせ・はるお：1871.5.18-1924.4.9）は日本の保険学者、実業家。日本の海上保険学の祖とされる。東京高等商業学校（現一橋大学）教授や帝国海上保険副社長を歴任し、独自の保険学を確立するとともに、多くの後進を育てた。

#### 佐野善作立像

設置場所：東京都国立市中 2-1 一橋大学法人本部棟の北

制作者：堀進二（1890-1978）

建立時期：1962年11月

設置経緯：佐野善作（さの・ぜんさく：1873.8.29-1952.5.1）は、日本の会計学者、経済学者、教育家。1914年東京高等商業学校校長、1920年東京商科大学（現・一橋大学）初代学長。商業教育に大きな功績があるとして、1952年に勲一等瑞宝章を受章した。

#### 堀光亀胸像

設置場所：東京都国立市中 2-1 一橋大学東本館の南西

制作者：渡辺弘行（1891-1988）：香川県出身、東京美術学校を卒業、朝倉文夫に師事。

建立時期：1941年4月12日

設置経緯：堀光亀（ほり・みつぎ：1876-1940）は、日本の教育者である。東京商科大学（現・一橋大学）の発展を支えた。商業大学必要論を著し、東京商業学校の商科大学昇格に貢献した。日本で初めて海運学を創設した。

#### 参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://fcm3.blog.ss-blog.jp/2015-02-11>
- 4) のサイト：<https://www.odakyubus.co.jp/regular/map/doc/mapA.pdf>
- 5) のサイト：<https://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/access/>
- 6) のサイト：<https://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/introduction/floor/>
- 7) のサイト：[杏林学園 50年の歩み - YouTube](#)

- 8) のサイト : <http://www.ne.jp/asahi/hikitako/nihongaisi/ichimainenpu/m-1/m-1-064-1.pdf>
- 9) のサイト : <https://jp.rti.org.tw/news/view/id/8094>
- 10) のサイト : <https://keibatsugaku.com/matsuda-6/>
- 11) のサイト : <https://page.auctions.yahoo.co.jp/jp/auction/u1034337708>
- 12) のサイト : <https://yachudaart.exblog.jp/32782185/>
- 13) のサイト : <https://www.shinseisaku.net/wp/archives/5710>